

総務教育環境委員会行政視察報告書

現地視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

令和8年1月14日

光市議会議長 森戸 芳史 様

総務教育環境委員会

委員長 河村 龍男

副委員長 藤川 みゆき

委員 仲小路 悦男

委員 中村 譲

委員 中本 和行

委員 仲山 哲男

委員 林 節子

委員 森戸 芳史 (議長)

委員 早稲田 真弓

随 行 山本 大輔

記

- 1 視察年月日 令和7年6月6日 (金)
- 2 視察場所 三井小学校
- 3 視察調査結果 別紙のとおり

総務教育環境委員会行政視察調査結果

日 時	令和7年6月6日（金）13:20～14:05
市町村名	光市
テーマ	小学校における環境学習の実施状況について
視察場所	三井小学校
応対者	光市環境市民部環境事業課 讃井部長 山田課長



1 視察概要

ごみ問題について理解を深めるとともに、児童に対する環境学習の取組状況を確認するため、環境事業課が市内の小学5年生を対象に実施している環境学習学校訪問を三井小学校に視察を行った。

環境学習は、ごみ収集に従事する担当職員がごみ収集車等を活用しながら、光市のごみ分別方法やごみ出しのルールについて説明することにより、児童のごみ問題に対する関心を高めることを目的としており、平成11年度から実施され、これまで約10,300人の児童が受講している。

講座では、はじめに、光市のごみの現状や分別方法について、光市のごみの量の推移などを学習したが、1年間のごみの量を収集車の台数で置き換えたり、1日あたりのごみの量で説明したりするなど、児童が身近に感じることができる分かりやすい説明であった。また、ごみを減量することで、ごみ処分費の削減や埋立処分場の延命化などのメリットがあること、そのために3R（ごみを減らす（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル））が重要であることを丁寧に説明されており、児童の理解促進や意識向上につながる内容であった。



説明の後、ごみ分別の模擬体験では、分別を間違えやすいものの確認など正しい分別方法を学習し、ごみ収集車の仕組み説明と積み込み体験では、収集車にごみを投入したり、収集車で大きいごみを破碎する様子を見たりするなど、実際に体験することで、児童が興味・関心を持ちながら学習することができ、理解促進につながる内容であった。



各委員の所感

河村 龍男

環境事業課職員3名で光市での現況報告を子供たちへ分かり易く説明をされ、見ていて気持ちが良いほど楽しい授業になっており関心させられました。

最初に可燃ごみの生ごみダイエット、生ごみの水分を減らすと何が良いのか、生ごみの80%が水分であることから、どうすればいいのか食材を使い切ることや、残さず食べることを学びました。リサイクル、リユース、リデュースの説明をされごみを減らすとどんな良いことがあるのか、埋め立て処分場を末永く使うことの大切さを勉強したのち、光市のごみ出しの現状について実際のごみ袋・模擬ごみを使って子供たちにごみをどのように仕分けをするのか実地をしました。現状、ごみ袋は白・赤・青・空・緑・黄の6種類ですが緑色のごみ袋はリサイクルのペットボトル、びん・かん、金属、小型家電と4通りに分かれ、家の中に多いときは10袋以上のごみ袋があることとなります。子供たちはそれぞれに分別し仕分けてなぜ分別が必要かを勉強しました。

次に外へ出て実際にパッカー車を使ってごみ回収の現状を見学し4年生でも分かり易い

過程になっており環境事業課職員の素晴らしさが良く理解できました。また、高齢者が家庭でごみの分別をすると家の中でたくさんのごみ袋を置かなければいけないことがよく理解できました。

藤川 みゆき

環境事業課の職員が小学4年生に向けて、ごみの分別や削減の必要性をユーモアを交えて分かりやすく説明されており、大変印象的でした。説明に加え、児童への質問や、実際の分別・回収作業の体験を通じて、ごみ問題をより身近に感じられる内容でした。文字だけでは伝わりにくい部分も、体験を通じて児童の理解が深まったように思います。何より、児童が積極的に学びに参加していた姿がとても印象的で、環境意識の芽生えを感じられる有意義な学習でした。

仲小路 悦男

環境事業課では、平成11年より小学4年生を対象に環境学習を実施しており、今回は、三井小学校の25人で午後2コマ約80分の学習を視察しましたが、児童は集中力を切らすことなく真剣に学んでいました。そこには、環境事業課の職員の工夫と話し方などの努力の跡が窺えます。

ごみを減らすことを最も重要なテーマとして、児童の発言を上手に引き出しながら進め、どういう意味があるのかも理解しやすく話し、ごみを減らそうとの意識がしっかりと心に刻まれたと思います。家庭においてもごみ削減をリードしてくれることを期待します。

また、ルートパッカー車とプレスパッカー車を実際に運転し、ごみの投入の体験もあり児童達は興味津津でした。

最後の質問の時間では、いくつも手が挙がり、たくさん質問がありましたが、回答が的確でわかりやすく感銘しました。

こうして学んだことを、大人になっても実践し続けることが課題ではないかと思います。

中村 譲

このたび、三井小学校において実施された環境学習の授業を視察させていただきました。本授業では、光市で実際にごみ収集業務に携わる方々を講師としてお迎えし、ごみの分別や収集の現場、そして市民一人ひとりの協力が必要不可欠であることについて、子どもたちが学ぶ機会となりました。講師の方々からは、回収作業の大変さやごみの分別の大切さといった、普段なかなか知ることのない具体的な話がなされ、子どもたちも真剣な表情で耳を傾けていました。また、質疑応答の場面では、多くの児童が積極的に手を挙げ、自らの疑問をぶつけていた姿が非常に印象的でした。今後もこのような地域の専門家と連携した実践的な学習が広がっていくことを期待するとともに、私自身も引き続き支援してまいりたいと考えております。

中本 和行

環境事業課ごみ・リサイクル係が事業で実施している環境学習学校訪問「出前講座」に参加し、職員がごみ処理状況、ごみ減量の取り組みについて話し、ごみ分別の体験、ごみ収集車への投入体験などにより、児童の皆さんのごみ減量への関心が深まった様に感じました。

今後は、地域住民と協力して清掃活動に参加し、家庭での意識付けをして、学校と家庭で連携し、環境の学習を行って良い効果が出ると思いました。

職員の方は、懇切丁寧で熱心な説明で、さらに、見聞を深めることが出来ました。

仲山 哲男

小学校4年生を対象にした環境学習として、環境事業課の出前講座の実施状況を視察させていただきました。最初に光市のごみの現状や分別方法についてのレクチャーでしたが、ごみの現状や市の取組み、分別の意義という内容を、飽きさせない運びで、分かりやすく進められていました。次の、ごみの分別体験も真剣に取り組んでいる様子を見て、家庭においてこの子たちが分別をリードしてくれるであろう姿が思い浮かぶようでした。外に出て、2種類パッカー車の仕組み説明と、積み込み体験にも積極的に取り組む姿が印象的でした。最後の質問に対しても現場を知る説明員ならではの丁寧で誠実な回答ぶり、詰まることなくすべてに答えているのも印象に残りました。決められた時間の中で、内容の濃い講座の構成でしたが、回数を重ねてきたことで、プログラムが練りこまれ、現場を知る説明員が余裕をもって実施されており、完成度の高さに感心しました。

林 節子

環境事業課の出前講座が、三井小学校で5年生の学習として行われた。光市のごみの現状、ごみを減量する方法、リサイクルや、ごみの分別方法を説明された。なぜ、分別は必要なのか、ごみ減量のため、生ごみの水分を切って出すと処分料が少なくて済む。分別をして、リサイクルに出すことにより、埋め立て込みが減り、処分場が長く使えるなど。体育館で児童が分別する体験も行われ、楽しく取り組んでいた。ごみの分別や、出し方を工夫し、ルールを守ることにより、処分費用の軽減に繋がり、地球温暖化防止に繋がる。一人一人が自覚を持って、分別を行う事が重要と感じた。

森戸 芳史

児童が歓声を上げるシーンがいくつもあり、ごみについての理解が促進する楽しい授業で、見ている側も2時間があっという間に過ぎました。また啓蒙の大切さを痛感した。ごみ減量には体験や教育を続けていくしかない。今後も粘りよく続けてほしい。

早稲田 真弓

はじめに、光市のごみの分け方について説明があり、実際に児童が分別を行なってみました。小型家電など数点の間違があったが、わかりやすい丁寧な説明があり、私自身の理解も進んだ。特に、ペットボトルのフタとラベルの分別、間違いやすいプラスチックの黄色と青色の分け方、さらに雑紙のリサイクルの説明は大人にも必要だと感じた。

後半は、パッカー車で実際にごみ収集の車の動きを見た。2種類のパッカー車を動かす度に、その迫力に驚き、児童が大きな声を出し、楽しく学習が進んでいた。私も初めてその様子を見て、その仕組みを知り、体験学習の重要性をあらためて感じた。

さらに、児童の質問が的確であり、それに対する説明員の回答も地球温暖化やリサイクルなど環境学習の意味を伝えるものとなっており、大変勉強になった。今後も環境学習を児童だけでなく、幅広く市民の方に行なっていただきたい。